ヨーロッパにみるまちづくり

○はじめに

今回は、先頃私が視察してきたドイツのフライブルグにおける、環境を重視した総合的な交通政策の一部を御紹介いたします。そしてその中には、これからの高齢化社会において必要となるであろう、移動しやすいバリアフリーのまちづくりについて考えさせられる点がいくつかありました。

○フライブルグの概要

フライブルグは、南ドイツに位置する人口20万人程の都市で、1970年代以降、先進的な環境共生型のまちづくりを積極的に進めており、住民の環境への意識も高く、ドイツの「環境首都」にも選ばれ、国際環境宣言都市の最先端モデル都市として世界中に知られております。

特に交通政策の面においては、路面電車の存続と延伸によって公共交通の利便性を向上させると共に、自転車道路網を整備して自転車の利用を増やし、あわせて市街地への自動車の乗り入れを規制することで、都市環境の悪化をもたらしている自動車への依存を減らそうとする、環境重視の都市交通政策が進められております。

○トランジットモールの状況

市街地の中心部は車の乗り入れが禁止されており、公共交通機関と歩行者・自転車のみが通行可能なトランジットモールが設けられております。そして、それを取り囲む環状道路に沿って駐車場が配置されております。

中央駅と立体交差している路面電車

○交通結節点の整備状況

中央駅では、鉄道と路面電車が立体交差しており、鉄道のプラットホーム直上に路面電車の停留所が設けられております。プラットホームと路面電車の乗降場は直接エレベーターで結ばれており、さらに駐車場、駐輪場が一体となって整備されております。

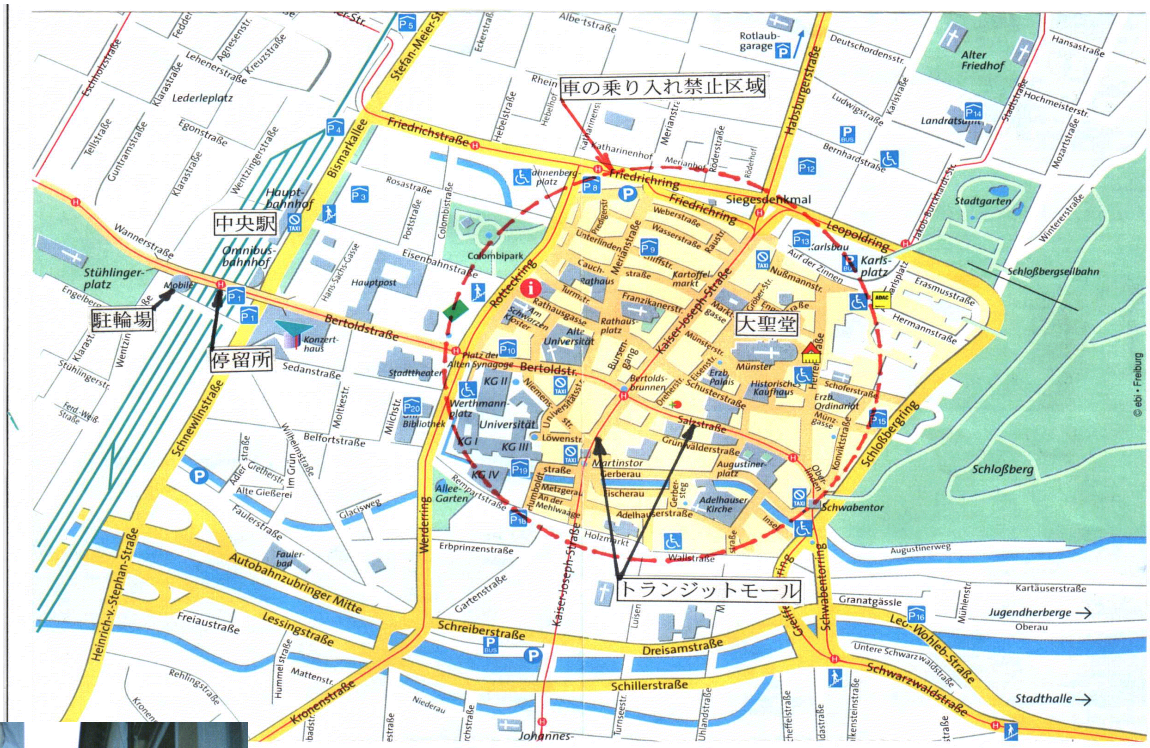
○街を歩いて

ゴシック様式のミュンスター（大聖堂）を中心として広がる街の中心市街地は、石畳の歩道の脇をベッヒレ（小川）と呼ばれる清流が流れており、街の景観にとっても効果があるなと感じました。

右の写真は、街の中を歩いていた時のこと、小さな通りで見つけたものです。１０段足らずの階段のすぐ横にリフトが設置されており、こんなところまでバリアフリー化が進んでいるんだと驚かされました。

また、環境の指標を表す電光掲示板が大通りの交差点にあったり、ごみの分別収集用の大型のゴミ箱が街角に置かれてあったり、教会の広場で開かれていた市場では、買い物籠（マイバッグ）を手に持った男性が居たりと、市民みんなの環境に対する意識の高さというものを感じました。

← 路面電車の停留所からみたプラットホーム（駅には改札口がない）



フライブルグの市街地→

図―１　フライブルグの市街地

←街中を流れる小川（奥に見えるのが大聖堂）

街中で見つけた小さなリフト

○おわりに

これからのまちづくりに向けて、私が感じた点を三つほど述べさせていただきます。

一つ目は、近年都市内の交通渋滞が環境の悪化を引き起こしているといった問題がある中で、都市内における自動車の流れの円滑化を図るには、現在の自動車に対する過度の依存から脱却すべきであります。そのためには、市民一人一人がこれからの都市内における移動のあり方というものを考えていくべきだと思います。

二つ目は、現在規制緩和によるバス路線の廃止などが懸念されている中で、自動車交通に代わるものとして、さらには高齢化社会における移動手段の確保といった観点からも、公共交通（主にバス）の果たす役割は重要となってきており、今後はその利用促進を図る必要があると思います。

その場合、駅などの交通結節点における移動の連続性を確保することが重要であり、そのための施設整備の推進を図るとともに、運行面でのサービス水準の向上を図る必要もあると思います。

三つ目は、今後自動車からバスや自転車などへ移動手段の転換を図っていく上からは、中心市街地へのアクセスをよくしたり、公共公益施設を市街地内に配置したりするなど、都市交通の面から土地利用を誘導して、コンパクトな都市構造を求めていくことが考えられると思います。

（問い合わせ先：茨城県土木部都市局都市計画課
和田　TEL029-301-4588）